

目
標

観光と情報との関わりについて、学習の問題を追究・解決する活動を通して、大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を発展させ、国民生活を向上させていることを理解するとともに、情報の種類、情報の活用の仕方などに着目して、観光における情報活用の現状を捉え、情報を生かして発展する観光業が国民生活に果たす役割を考え、表現できるようにする。

時数

本
事
例
の
展
開

1

旅行計画を立てよう

旅行計画を実際に立てる活動を通して、ガイドブックやパンフレット、タブレットなどの手段による違いに気づくことができるようにする。

2

情報を集める
手段の違い

前時の学習をもとに、情報を集める手段の違いを話し合うことで、情報通信技術に着目し、学習問題をつくれるようにする。

3

学習計画を
立てよう

学習計画を自分たちで立て、これからの学習の見通しをもつことができるようにする。

4

宿泊予約サイトや
旅行サイトの工夫

情報通信技術を使って旅行の予約や情報収集ができる利便性と、それを実現する工夫について捉えられるようにする。

時数

5

県庁の観光政策課の
はたらき

県庁の職員の話から、行政も、観光客を増やすために情報通信技術を活用していることを理解できるようにする。

6

SNSや口コミの
はたらき

SNSや口コミサイトなどの普及によって、観光業に新たな動きが生み出されていることを理解できるようにする。

7

旅行会社の
情報活用

旅行会社が情報通信技術を活用して発展していることを理解できるようにする。

8

観光業と他の産業との
つながり

情報ネットワークを通じた観光業と様々な産業とのつながりに気づき、そのつながりによって産業全体が発展していくことを理解できるようにする。

時数

9

観光における情報通信技術の
はたらき

調べたことを関係図に表し、大量かつ多様な情報の活用によって、様々な産業が発展し、国民生活が向上していることを理解できるようにする。

10

観光客を
増やすためには

徳島県への観光客数を増やす方法を考えることを通して、これからの情報活用について考えることができるようにする。

11

これまでの学習を生かして、
討論しよう

徳島県への観光客数を増やす方法について考えたことを話し合い、これからの情報活用について、広く深く考えることができるようにする。

ポ
イ
ン
ト

「情報や情報技術を活用して発展している産業」のうち、「観光」の事例について教材化を図り、実践したものである。「観光」を取り上げた理由は、次のとおりである。

- ①近年、情報化による変化や発展が著しい分野である。
- ②国は観光立国、県は観光立県をめざしており、観光協会等からの情報収集がしやすい。
- ③多様で大量の情報を収集・選択・発信している例を具体的に調べられる。
- ④観光業を通して、他の産業とのつながりも見えやすい。
- ⑤情報の発信者と利用者それぞれの立場から、多角的に考えやすい。

第1時 旅行計画を立てよう

旅行計画を実際に立てる活動を通して、ガイドブックやパンフレット、タブレットなどの手段による違いに気づくことができるようにする。

1

班ごとに旅行計画を立てよう。

●様々な手段を使って情報を収集して、旅行計画を立てる。

- ・いつ？(出発日や日程)
- ・どこへ？
- ・交通手段は？
- ・見たいもの、したいこと、買いたいもの、食べたいものは？
- ・かかる費用は？
- ・宿泊先は？(空いている部屋はある？)

できるだけ具体的に調べましょう。



東京タワーでおもしろそうなイベントをしているね。

イベントの日のホテルや航空機の空きはあるかな。

近くにおもしろいお店があるよ。ここで昼を食べたいね。

指導のポイント

- 子どもたちには、行きたい旅行先を事前にアンケートで聞き、行き先ごとに班分けをする。ただし、範囲が広がりすぎないように、国内に限定した方がよい。自由に旅行計画を考えることで、学習への意欲・関心を高めたい。できるだけ具体的かつ現実的な計画を立てるよう促す。
- 情報を集める手段として、子どもたちが扱いやすいガイドブックやパンフレット、ウェブサイトなどを事前に見つけておき、多様な手段を使って情報を得られるようにする。タブレット端末でのインターネット活用も取り入れることで、情報通信技術の利便性に気づかせたい。

第2時

情報を集める
手段の違い

前時の学習をもとに、情報を集める手段の違いを話し合うことで、情報通信技術に着目し、学習問題をつくることができるようにする。

1

情報を集める手段の違いについて、マトリックスを使って考えよう。
●どの手段で、どのような種類の情報を入手しやすかったかを評価して、マトリックスに◎○△を書き込む。

インターネットだと、その時点での予約状況を見ることができたね。

ガイドブックは、観光スポットを詳しく紹介していたね。



パンフレットは、全体的に情報が少なかったよ。

インターネットだと、たくさんの情報が出てきたよ。

	観光スポット	アクセス	宿泊	名物	費用
ガイドブック	○	△	○	◎	△
パンフレット	○	△	△	○	△
タブレット	◎	○	◎	◎	◎

▲ ある班のマトリックス

2

各班の意見の共通点を見つけよう。

●各班のマトリックスを見比べ、インターネット（情報通信技術）の利便性を共有し、学習問題をつくる。

情報を集める手段には、どのようなちがひがあるのだろう。

3	観光	宿泊	名物	費用
インターネット	△	△	×	○
旅行会社	△	×	×	×
観光局	○	○	○	○
旅行雑誌	○	○	○	○

4	観光	宿泊	名物	費用
インターネット	○	○	△	○
旅行会社	○	○	○	△
観光局	○	○	○	○
旅行雑誌	○	○	○	○

5	観光	宿泊	名物	費用
インターネット	○	△	○	○
旅行会社	△	△	○	○
観光局	○	○	○	○
旅行雑誌	○	○	○	○

6	観光	宿泊	名物	費用
インターネット	○	×	○	○
旅行会社	△	○	○	○
観光局	○	○	○	○
旅行雑誌	○	○	○	○

インターネットに○や◎が多いね。

インターネットを使うといろいろなことができそうだね。

▲各班のマトリックスを並べて、共通点を読み取る。

旅行をするときに、インターネットで情報を集める人はたくさんいると思う。



ホテルや旅行会社では、インターネットで申し込んでもらうために何か工夫しているのかな。



【学習問題】

観光業では、どのように情報通信技術を使っているのだろう。

指導のポイント

情報収集手段の比較を促すツールとして、マトリックスを活用する。日々の経験を通して情報通信技術が便利なものだと感じている子どもたちは、インターネットに対しても肯定的である場合が多い。比較するなかでインターネットの利便性に自然と注目が集まり、学習問題につながると考えられる。

第3時 学習計画を立てよう

学習計画を自分たちで立て、これからの学習の見通しをもつことができるようにする。

1

疑問と予想を出し合い、学習計画を立てよう。

●学習問題から派生した具体的な疑問について、予想を立てる。予想したことをもとに、調べる内容と方法を考える。

〔疑問〕

- ・どんなウェブサイトが多く使われているのか。
- ・観光客以外にも、観光に関する情報を利用しているところはあるのか。
- ・情報はどのようにやりとりされているのか。

〔予想〕

ホテルの予約サイトのCMをよく見るから、多く使われているのではないかな。



情報通信技術は、情報を集める以外の使いみちもありそう。



知りたいことがすぐに調べられたのは、便利なウェブサイトをつくる工夫があるからだと思う。



〔計画〕

調べる内容

- ・観光客向けに、どのようなウェブサイトがあるのか。
- ・県では観光客を増やすために何かしているのか。
- ・旅行会社の人は何をしているのか。
- ・情報通信技術を使うと、どのようなよいことがあるのか。

調べる方法

- ・もっといろいろなウェブサイトを実際に見てみる。
- ・家ではどんなウェブサイトを利用しているのか聞いてみる。
- ・くわしい専門家の人に話を聞いてみる。

指導のポイント

インターネット上の情報の行き来は目に見えず、わかりにくい。情報通信技術の活用のイメージができるだけ広がるように、自由な話し合いの中で多くの疑問や予想を引き出したい。

第4時

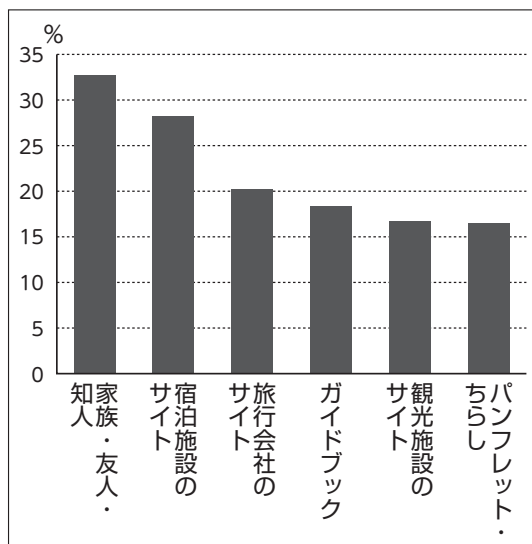
宿泊予約サイトや旅行サイトの工夫

宿泊予約サイトや旅行サイトの利用者が多い理由を探り、情報通信技術を使って予約や情報収集ができる利便性と、それを実現するための工夫について捉えられるようにする。

1

旅行の計画に、何が多く使われているのかを調べよう。

●旅行の計画を立てる際に人々は何を参考になっているのか、グラフや家族からの聞き取りをもとに捉える。



▲ 旅行を計画する段階で参考にした情報源 (2018年度 JTB総合研究所のアンケート調査より)

宿泊予約サイトや旅行会社のサイトの利用者が多いね。



みなさんの家では何を使っているか、聞いてきたことを話し合ひましょう。



家ではいつも、予約サイトを見ていろいろなプランを比べながら決めているよ。



お父さんは飛行機のチケットもスマホやタブレットでとっているよ。



2

タブレットを使って、宿泊予約サイトや旅行会社のウェブサイトの工夫を見つけよう。

●実際にタブレット端末を使って観光情報を提供するウェブサイトを開覧し、便利な点やわかりやすい点などを話し合う。

タブレットやスマホを使うと、いつでもどこでも、情報を見たり予約したりできるね。

目的地にある旅館やホテルを一覧で見ることができるね。



航空券とセットで、宿泊先の予約もとれるんだね。

同じホテルでも、いろいろなプランが探せたり、どこのサイトから予約すると安いかを調べたりできるんだね。

指導のポイント

実際にウェブサイトを見るなかで、いつでもどこでも予約できることや、多様なプランから自分の条件に合ったものを瞬時に絞り込めることなど、情報通信技術ならではの利便性に多く気づかせたい。特に、「いつでも」「どこでも」「大量の」といったキーワードを全体で確認するようにする。

第5時

県庁の観光政策課のはたらき

県庁の観光政策課の職員の話から、行政も、観光客を増やすために情報通信技術を活用していることを理解できるようにする。

1

県庁の観光政策課の方の話を聞こう。

●県が観光振興のためにどのように情報通信技術を活用しているのか、職員を招いて話を聞く。



▲ 観光政策課のAさん

徳島県をPRするために観光ホームページを作成しています。写真つきでモデルコースを提案したり、動画サイトにPR動画を投稿したりしています。外国語での表記も、いくつか用意しています。

徳島県への宿泊者数は全国最下位ですが、SNSでの情報発信によって、少しずつ観光客数が増加傾向にあります。

2

聞いた話を整理しよう。

●県の情報発信の取り組みについて、わかったことを整理する。



県の情報を発信して、観光客を増やす努力をしているんだね。



徳島県への宿泊者数は全国最下位と言っていたよ。ショックだけど、なぜかなあ…。



外国の有名人がSNSでお遍路さんのことを発信して、外国からの観光客が増えたと言っていたね。

指導のポイント

徳島県としての観光振興の取り組みをゲストティーチャーから聞き、県が情報通信技術を使って様々な情報を多方面に発信していることをつかませる。一方で、徳島県への宿泊者数が全国最下位という現状にも触れ、問題意識をもたせておきたい。SNSの影響についても具体例を話してもらい、次時の学習につなげる。

第6時

SNSや
口コミのはたらき

SNSや口コミサイトなどの普及によって、観光業に新たな動きが生み出されていることを理解できるようにする。

1

SNSや口コミを見てみよう。

- タブレット端末を使って、SNSや口コミが載っているサイトを実際に見て、どのような利点があるのかを探る。

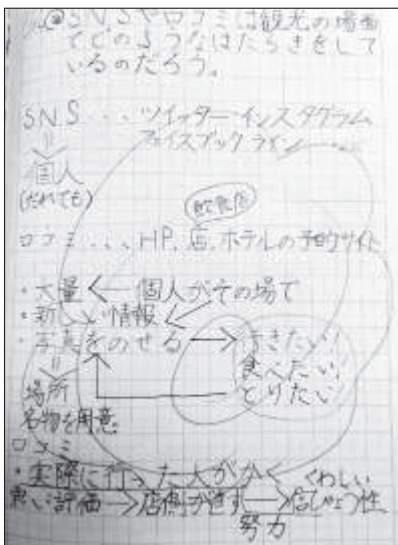


一人ひとりがその場で情報を発信するから、最新の情報を大量に手に入れることができるね。

2

ニュース番組で、SNSがどのようなはたらきをしているのかを見てみよう。

- 最近の観光の動向をニュース番組の特集で見て、SNSでの情報発信が観光に及ぼしている影響について考える。



「インスタ映え」する写真を撮りたいから旅行する、という人たちがいるんだね。



ふり返り 私は、SNS、口コミなどはあまりよいものではないと思っていたけど、今日勉強してSNSは、個人が写真をのせてたれかがそれを見ると行きたい、食べたい、住みたいと思え、私は名物を用意してやる。

◀ 調べたことを整理した、児童のノート

指導のポイント

写真を投稿・共有できるSNSの利用者が増えていること、そのニーズを狙って写真映えする商品やスポットを用意する店や地域があることなど、新しい観光の動向について触れる。SNSや口コミを通じて、個人の情報発信が観光業に対して影響を与えていることを意識させたい。

第7時

旅行会社の情報活用

旅行会社が情報通信技術を活用して発展していることを理解できるようにする。

1

旅行会社の人の話を聞こう。

●インタビュー映像を見て、わかったことをメモする。



▲ 旅行会社のBさん

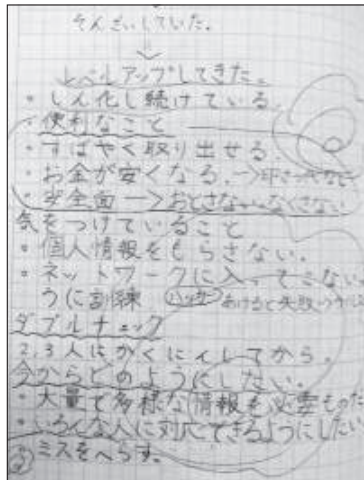
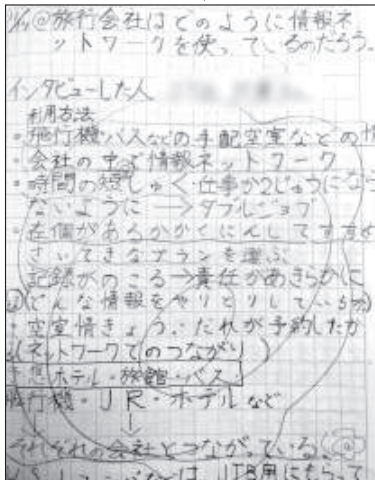
会社内のネットワークによって、商品やお客さんの情報を共有・管理しています。それによって、すばやく安全に大量の情報を管理することができ、紙で保管するよりコストもかかりません。
また、他の関連会社ともネットワークでつながり、すばやく情報のやりとりをすることができます。以前からこういったシステムはありましたが、年々バージョンアップしてきています。さらに、AIなどの新しい技術の活用も考えています。

2

メモを整理しよう。

●インタビューからわかったことをノートに整理する。

社内のネットワークで情報を管理しているんだね。パスワードを使って、情報の流出に気をつけているんだね。



情報通信技術も年々進化してきているんだね。AIなどがもっと活用できれば、ミスも減らせるかもしれないだね。

◀ 児童のノートより

指導のポイント

- 質問の内容を事前に子どもたちに考えさせるなどして、気になっていた疑問を解決できるようにしたい。
- 産業間のつながりや技術面の進歩など、「空間」「時間」「社会システム」といった視点から、情報通信技術について考える。

第8時

観光業と他の産業との
つながり

情報ネットワークを通じた観光業と様々な産業とのつながりに気づき、そのつながりによって産業全体が発展していくことを理解できるようにする。

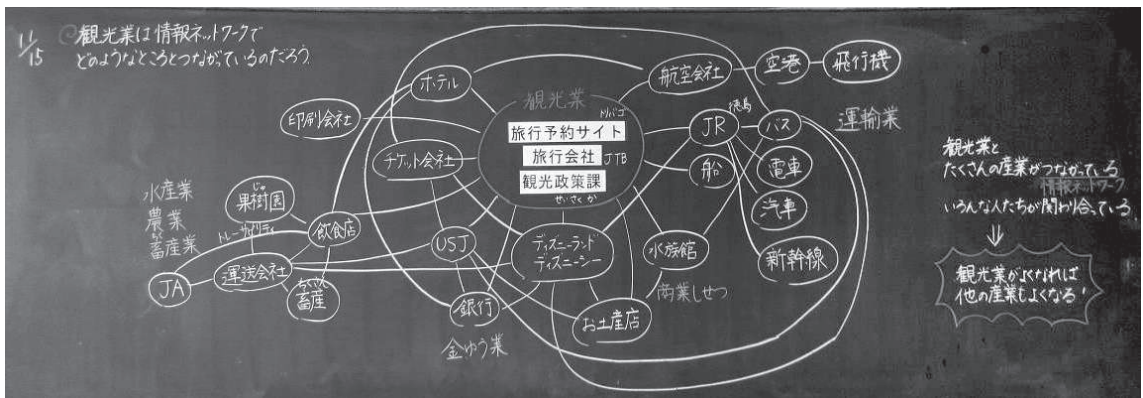
1

観光業とつながっている産業を考えよう。

●これまでの学習をもとに、観光業とつながりのある産業を挙げていき、そのつながりの意味を考える。

【考えるための材料】

- ・ 県庁、旅行会社の人の話
- ・ 修学旅行の明細書
- ・ 農業や水産業などの既習内容



いろいろな産業がつながって情報をやりとりすることで、便利なサービスが生まれていると思う。



つながっているということは、どこかの産業がよくなったら、他の産業にもよい影響が広がっていくね。

指導のポイント

- 今までの学習や修学旅行の明細書などをもとに、観光業がどのような産業とつながっているかをノートに自由に書かせる。その後、全体で共有し、様々な産業が見えないところでつながり、情報をやりとりし、よりスムーズに仕事をしていることを捉えさせる。産業間のつながりが視覚的にわかるように整理する。
- 「観光業がよくなれば他の産業はどうなるかな」と問いかけることで、情報ネットワークを通じた産業間のつながりが、産業全体に発展をもたらす可能性もあるという意識をもたせたい。

第9時

観光における情報通信技術のはたらき

情報通信技術が観光の場面でどのように活用されていたかを関係図に表し、大量かつ多様な情報の活用によって、様々な産業が発展し、国民生活が向上していることを理解できるようにする。

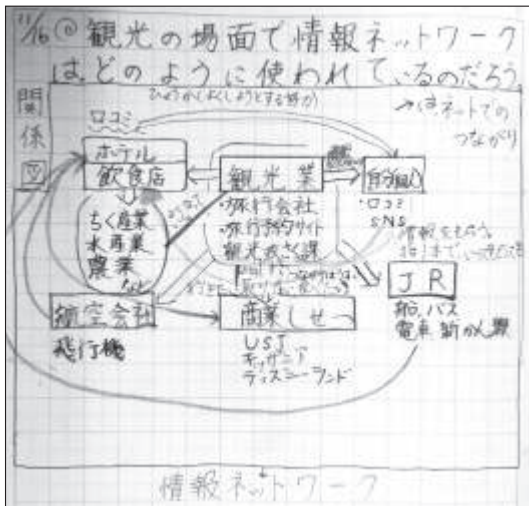
1

観光の場面で情報がどのように使われているのか、関係図に表そう。

●これまでの学習をもとに、観光業と他の産業とのつながり、観光に関する情報のやりとりなどを関係図に整理する。



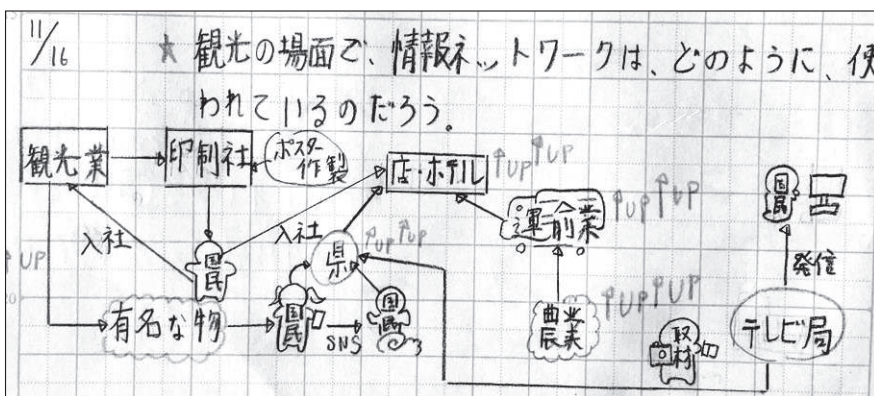
みんなが最初に「便利そうだな」と思った情報通信技術は、観光の場面でどんなふうに使われていたかな。関係図に表してみよう。



観光業はいろいろな産業とつながって、すばやく情報のやりとりをしていたよ。そのおかげで、観光をする私たちも、詳しい情報をすぐ知ることができるんだね。

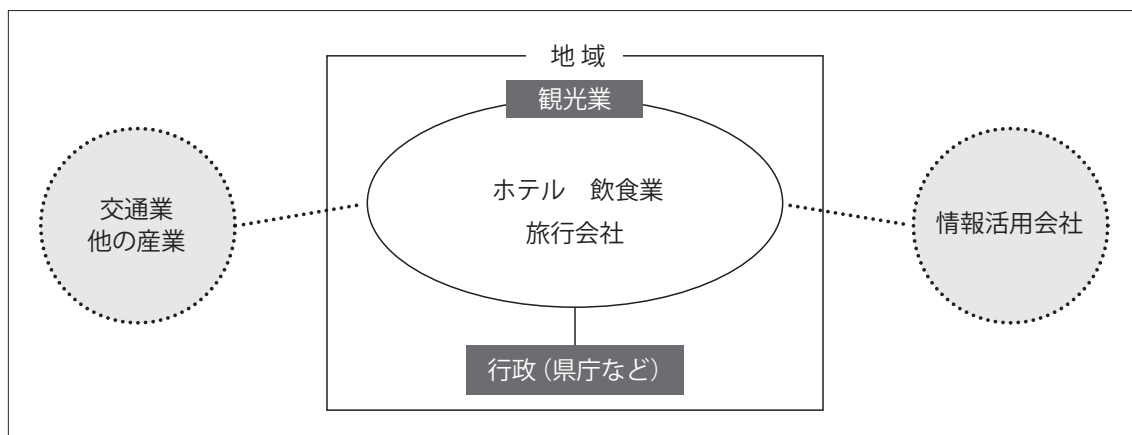


自分たち国民も、SNSなどで情報を発信して、観光業や他の産業とつながることができる。それによって、様々なサービスや自分たちの生活がレベルアップしていくと思うよ。



▲ 児童のノート例

〔関係図の一例〕



2

友だちと意見を伝え合い、考えたことをまとめよう。

●それぞれの関係図を見せ合って意見交換し、考えをまとめる。

観光業は、様々な産業と大量の情報をすばやくやりとりすることで、スムーズに仕事をできるようになっているよ。



わたしたちは、いつでも、どこでも、様々なサービスを受けることができるようになっていることがわかったよ。

様々な産業や人どうしがつながっているから、観光業がよくなると、産業全体が発展していくんだね。



みんなの生活が便利になってきたし、これからさらに便利になっていくと思うよ。

まとめ

情報通信技術を使って、多様で大量の情報を瞬時に収集・発信し、それらを活用することで、産業が変化・発展している。国民も情報通信技術を使うことで、いつでもどこでも様々なサービスを受けることができ、生活が向上している。

3

県内宿泊者数に関する資料を読み取り、新たな課題を考える。
 ●これまでの学習を確認しつつ資料を読み取り、考えたことを話し合う。

観光業と様々な産業どうしが、情報通信技術を活用してつながることで、発展していけると言っていたよね。



でも、徳島県の観光は、今どうなっているでしょうか。



上位	1	東京都	7898万人
	2	大阪府	4743万人
	3	北海道	3698万人
下位	45	佐賀県	280万人
	46	奈良県	273万人
	47	徳島県	257万人

観光政策課の人も、徳島県への宿泊者数は全国最下位だと言っていたね。



このままでは
徳島県の産業が
衰退してしまう!!

▲ 都道府県別の宿泊者数(2019年 観光庁『宿泊旅行統計調査』)
 ※授業では、徳島県内の宿泊者数の低迷を伝える新聞記事を提示した。



新たな問い：徳島県への観光客を増やすには、情報をどのように活用すればいいのだろう。

指導のポイント

- 今までの学習をもとに、各自で関係図に整理する時間を取り、本単元の概念的知識を得られるようにしたい。それぞれの関係図を全体で共有し、「情報活用による産業の変化・発展と、それによる国民生活の向上」という概念を見いだせるようにする。
- 情報通信技術を活用した産業間のつながりによって、産業全体が発展していくことを確認したうえで、徳島県内の宿泊者数が全国最下位であったことを想起させる。地域のこれからの発展に危機感をもち、より「自分ごと」として、観光の分野における情報活用について考えるきっかけをつくりたい。

第10時

観光客を増やすためには

徳島県への観光客数を増やす方法を考えることを通して、これらの情報活用について考えることができるようにする。

1

旅行会社と観光政策課のどちらかの立場を選ぼう。

●観光客を増やす取り組みを考える前に、どの立場から考えるかを決めておく。

旅行会社は情報を多く活用していたね。さらに力を入れたら、徳島県にもっと人を呼べるかもしれないよ。



県内でもっとできそうなことがあるような気がするなあ。観光政策課の人の立場で、考えてみよう。



2

情報を活用して観光客を増やす取り組みを考えよう。

●具体的な解決案を各自で考え、付箋に書く。

3

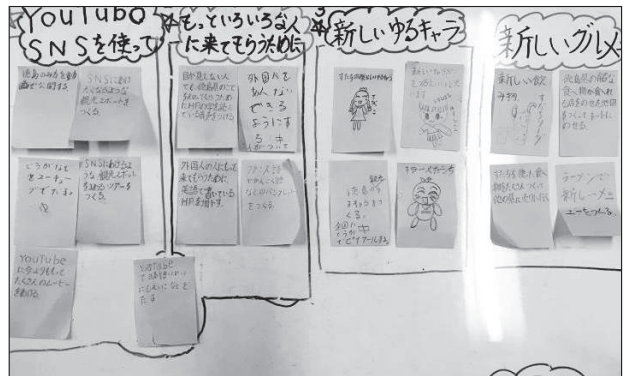
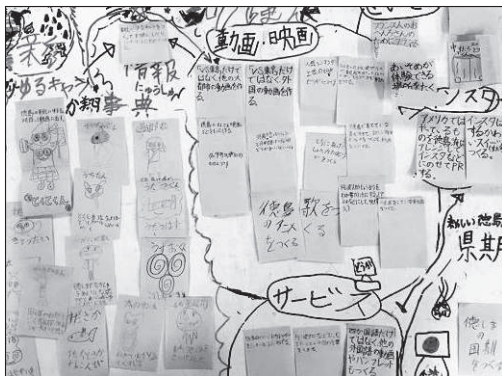
二つの立場に分かれたグループで整理しよう。

●書いた付箋を持ち寄って、どのような取り組みが考えられるか話し合う。

「観光政策課」グループ



県内の情報をもっと集める必要があるね。最新の情報をすぐ発信することが大事だと思うよ。

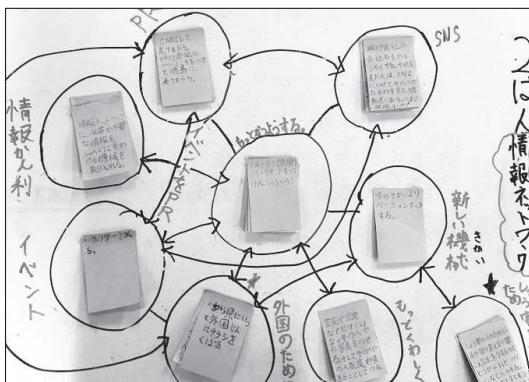


お年寄りやハンディキャップのある人、外国の人にも伝わりやすいサービスがあるといいね。

県のPR動画をSNSにもっと頻繁に投稿してみたらどうか。

新しい「ゆるキャラ」を考えて発信したら、SNSで広まって人気が出るかも！

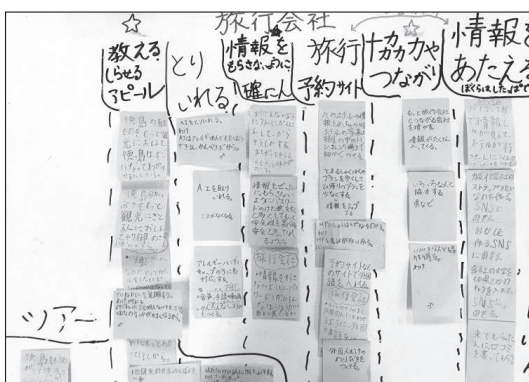
「旅行会社」グループ



まずは多くの人に知ってもらうことが必要だよ。あと、魅力のあるツアーをアピールしていかなくちゃ。

もっといろいろな会社や地域とつながると、さらに情報を集められたり、自分たちが情報を発信できたりするよ。

外国の人や障がいのある人のためにも、新しい情報通信技術が必要じゃないかな？



指導のポイント

情報通信技術を活用して自分たちの県に観光客を呼ぶ方法を、まずは個人で考えて付箋に書く。その後、立場ごとにグループを組み、KJ法でアイデアを整理・分析していく。次時の討論に向けて、主張の根拠をつくり、意欲を高めておきたい。

第11時

これまでの学習を生かして、討論しよう

徳島県への観光客数を増やす方法について考えたことを話し合い、これからの情報活用について、広く深く考えることができるようにする。

1

観光政策課と旅行会社の両者の立場から、解決案を話し合おう。

●前時に整理した案を、二つの立場からそれぞれ発表する。



旅行会社の人が言っていたように、これからさらにシステムが進化していくと思います。

県内でのつながりが薄かったので、もっと様々な会社や地域とつながっていけると、よくなると思います。



2

共通点を見つけよう。

●出された案に共通して見られる要素を挙げ、これからの情報活用で必要なこと、大切なことを考える。

旅行会社も観光政策課も、さらに情報を発信していくことが必要になるのは同じだね。



AIなどの新しい情報通信技術が導入されるといいと思うよ。人間はどうしてもミスをすると言っていたし、さらにシステムは進化していきそうだね。

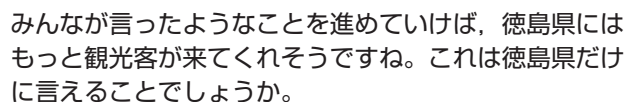
外国人でも障がいのある人でも、誰もが情報を受け取れるようになればいいね。



もっといろいろな会社や地域とつながっていくと、さらに情報を集めたり、発信したりしやすくなるね。

他の都道府県や日本全国の例を見てみよう。

●他地域での観光における情報活用の例を、インターネットを使って調べる。

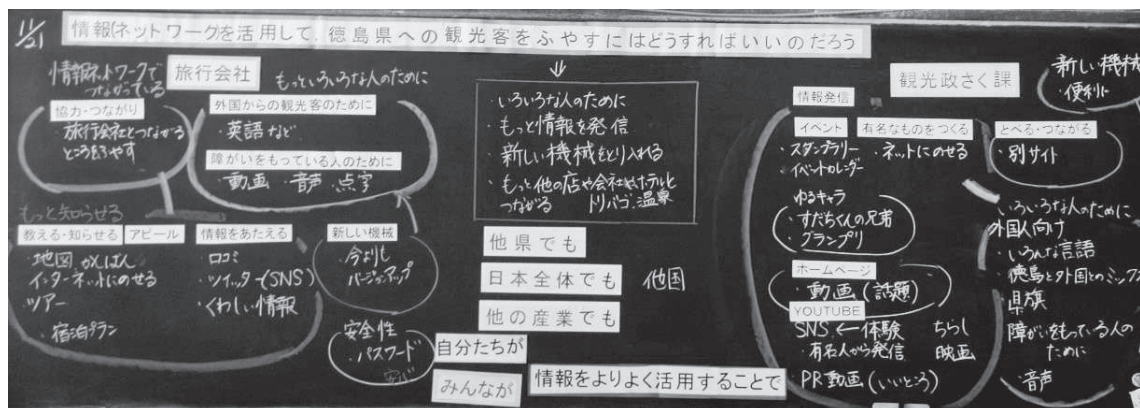


- ・東京都、日本政府の観光ウェブサイトを見る。

他の都道府県では、私たちが考えたような取り組みをすでに取り入れているところや、さらに進んでいるところがあるんだね。



情報通信技術をうまく活用することによって、外国から来た人もさらに観光しやすくなると思う。



次の単元へ

指導のポイント

自県の観光客数を増やす方法を考え、話し合うことで、これからの産業の発展に必要なことを具体的に考えられるようにする。また、同様の視点を日本全体にも広げ、情報通信技術の活用を日本全体の産業の発展ともつなげて捉えられるようにする。